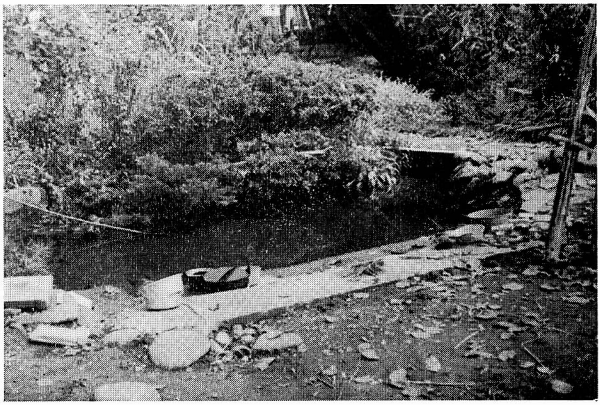
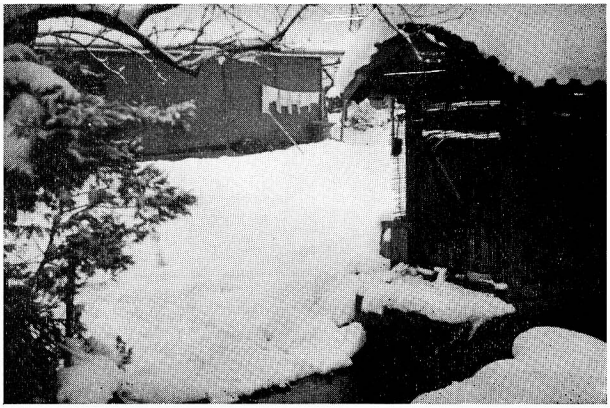
上半分を土蔵壁にしているなどのが目立つ。

母屋の前の広場はにわで、脱穀や、乾燥場などに当てるが、その側に、ため場という、厩肥などのためばがあった。これは屋根をふくことに改良されて、建物の中にとり入れたり、野良の堆肥になって、失われ始めている。屋敷の広い場合は蔬菜園、果樹園などをおき、さえんばなどとも呼んでいる。城下町会津若松市のさえんばは、実は北会津村で、これも広く通称されているのは村の特性を表現しているようで面白い。

もう一つ屋敷構えで目立つのは、扇状地の湧水地帯であり、旧河川跡などに沿う用水堀も多いので、多くの家に小堀なり、湧水をひき入れ、また数軒共同で一つの清水を使うなりして、使い場が多いことである。さえんばで、冬の蔬菜出荷などに、湧水のぬるみは、



たないけの洗い場（石原にて）



堀のつかい場、冬のすだれかけ（42.1.7西麻生にて）